

べっしひょうじゅんようしき だい じょうかんけい  
別紙標 準様式 (第6 条 関係)

かい ぎ ろく  
会 議 録

かいぎ 会議	の	めいしょう 名称	れいわ ねん ど ひらかたししやかいふくししんぎかい 令和5 年度枚方市社会福祉審議会  だい かい しょうがいふく しせんもんぶんかかい 第5 回 障 害福祉専門分科会
かいさい 開催	にちじ 日時	れいわ ねん がつ にち げつ 令和5 年 1 1 月 1 3 日 (月)	かいしじこく ごぜん じ ふん 開始時刻 午前10時00分 しゅうりょうじこく ごぜん じ ふん 終了時刻 午前11時50分
かいさい 開催	ばしょ 場所	ひらかたしやくしよ べっかん かい だい いいんかいしつ 枚方市役所 別館4 階 第4委員会室	
しゅつせきしや 出席者		かいじょう み た ゆう こ なかおか まさき ひ の ゆたか よねかわ まい 会場： 三田 優子、中岡 将基、日野 裕、米川 舞、 やすだ ゆうたろう やまもと よしよ まえだ とも み 安田 雄太郎、山本 佳代、前田 有美、 あずま さなえ わたなべ きよし 東 早苗、渡辺 清 リモート： たかはし まさこ 高橋 昌子、	
けつせきしや 欠席者		むらかみ てつや こじょう ま むねあき いたどり としかず 村上 哲也、小上馬 宗昭、虎杖 利和	
あん 案	けん 件	めい 名	1. ひらかたししやうがいしやけいかく だい じ かいていばん およ ひらかたししやうがいふくし 枚方市障害者計画(第4次)改訂版、及び枚方市障 害福祉 けいかく だい き ひらかたししやうがいふくしけいかく だい き そあん 計画 (第7期)・枚方市障害児福祉計画 (第3期) 素案に ついて 2. ひらかたししやうがいしやけいかく だい じ かいていばん およ ひらかたししやうがいふくし 枚方市障害者計画(第4次)改訂版、及び枚方市障 害福祉 けいかく だい き ひらかたししやうがいふくしけいかく だい き さくてい 計画 (第7期)・枚方市障害児福祉計画 (第3期) 策定に 係るアンケート調査結果について 3. ちいきせいかつしえん きよてんとう せいび 地域生活支援拠点等の整備について 4. その他
ていしゅつ 提出された	しりょうとう 資料等の	めい 名	しりょう ひらかたししやうがいしやけいかく だい じ かいていばん およ ひらかたししやうがいふくし 資料1 : 枚方市障害者計画(第4次)改訂版、及び枚方市障 害福祉 けいかく だい き ひらかたししやうがいふくしけいかく だい き そあん 計画 (第7期)・枚方市障害児福祉計画 (第3期) 素案 しりょう ひらかたししやうがいしやけいかく だい じ かいていばん およ ひらかたししやうがい 資料1-1 : 枚方市障害者計画 (第4次) 改訂版、及び枚方市障 害 ふくしけいかく だい き ひらかたししやうがいふくしけいかく だい き 福祉計画 (第7期)・枚方市障害児福祉計画 (第3期) こっしあん 骨子案 しりょう ひらかたししやうがいしやけいかく だい じ かいていばん およ ひらかたししやうがい 資料1-2 : 枚方市障害者計画 (第4次) 改訂版、及び枚方市障 害 ふくしけいかく だい き ひらかたししやうがいふくしけいかく だい き 福祉計画 (第7期)・枚方市障害児福祉計画 (第3期) がいようばんあん 概要版案 しりょう ひらかたししやうがいしやけいかく だい じ かいていばん およ ひらかたししやうがい 資料2-1～4: 枚方市障害者計画(第4次)改訂版、及び枚方市障 害 ふくしけいかく だい き ひらかたししやうがいふくしけいかく だい き 福祉計画 (第7期)・枚方市障害児福祉計画 (第3期)

	<p>策定に係るアンケート調査結果速報</p> <p>資料2-5：福祉に関するアンケート（障害者）支援区分ごと</p> <p>資料3-1：地域生活支援拠点等の必要な5つの機能についての整備状況</p> <p>資料3-2：厚労省資料抜粋（地域生活支援拠点等の整備について）</p> <p>参考資料1：障害者基本計画（第5次）概要</p> <p>参考資料2：障害福祉サービス等及び障害児通所支援等の円滑な実施を確保するための基本的な指針</p> <p>参考資料3：第7期市町村障害児福祉計画及び第3期市町村障害児福祉計画策定に向けた大阪府の基本的な考え方</p> <p>参考資料4-1～4：枚方市障害者計画（第4次改訂版）、及び枚方市障害福祉計画（第7期）・枚方市障害児福祉計画（第3期）策定にかかるアンケート調査票</p> <p>参考資料5：障害福祉専門分科会委員名簿</p> <p>参考資料6：枚方市障害者計画（第4次）・枚方市障害福祉計画（第6期）枚方市障害児福祉計画（第2期）【冊子】</p>
決定事項	<p>枚方市障害者計画（第4次）改訂版、及び枚方市障害福祉計画（第7期）・枚方市障害児福祉計画（第3期）素案について報告しました。</p>
会議の公開、非公開の別及び非公開の理由	<p>公開</p>
会議録の公表、非公表の別及び非公表の理由	<p>公表</p>
傍聴者の数	<p>—</p>
所管部署（事務局）	<p>障害企画課</p>

## 審 議 内 容

○事務局

それでは、本日の出席状況を報告いたします。本日は村上委員、小上馬委員、虎杖委員より御欠席の連絡をいただいております。高橋委員はウェブでの参加となっております。

枚方市社会福祉審議会条例で、委員の2分の1以上の出席をもって開催すると規定しており、本日は委員数13名のうち、出席者は10名であり、開催要件を満たしていることを御報告いたします。

また、本日はウェブ形式での開催となっております。御発言の際は画面上で挙手を、また発言されるとき以外はミュート設定にさせていただきますよう、お願いいたします。

続きまして、本日お示ししている資料について御説明いたします。本日はペーパレス会議システムを使用し進行してまいりますので、お手元にございますタブレット端末を御覧ください。

事務局側で操作をいたしますので、そちらのほう操作方法など分かりにくい場合は、挙手をいただければ職員が参りますので、よろしく願いいたします。

事務局からの報告は以上でございます。

○会長

ウェブ参加の高橋委員、聞こえてますでしょうか。はい、ありがとうございます。続きまして、本日、傍聴者はいらっしゃいますか。

○事務局

本日はいらっしゃいません。

○会長

はい、ありがとうございます。

では早速、次第に沿って始めていきたいと思います。まず、案件1「枚方市障害者計画（第4次）改訂版、及び枚方市障害福祉計画（第7期）、そして枚方市障害児福祉計画（第3期）素案」について、事務局から御説明をお願いします。

【案件1事務局説明（資料1、資料1－2）】

○会長

事務局、事前に送られたものとかかなり数字が変わってますけど、タブレットのほう新しいとか、正しいという感じですね。

○事務局

はい、そうです。

○会長

今の御説明につきまして御質問、御意見ありましたらお願いしたいと思います。よろしいですか。

はい、どうぞ、A委員。

○A委員	障害福祉サービス事業所へのアンケートの自由記載についての提示がまだないですが、なぜでしょうか。
○事務局	今回、用意していますアンケートにつきましても集計のものになっている状態として、自由記載の部分につきまして、まとまっている部分がまだ、こちら手元に来ておりませんで、またお示しさせていただくようにいたします。
○A委員	手元に来てないというのは、どこか外部に委託されているということですか。
○事務局	はい、そうです。
○会長	A委員、いいですか。
○A委員	市民アンケートの自由記載は提示されているのに、事業者アンケートの自由記載がまだできていないというのは疑問ですが。
○事務局	数値化されてる集計分については、確認していますが、そちらまでがまだ、まとまりきってないようでした。申し訳ございません。
○A委員	よく分かりませんけど。
○会長	それを私たちが共有して意見を出すという時間があるのかどうかということかもしれないですね。
○A委員	12月の市民意見聴取での素案には間に合うけれども、この審議会には間に合わないという理解でいいのでしょうか。
○事務局	市民意見聴取のときに、アンケートの内容は資料として出ないんですけれども。作業の進捗の具合を確認しまして、可能な限り委員の皆様にご提示できたと思っておりますので、ちょっとお時間いただけたらと思います。
○A委員	アンケートを分析してこの計画をつくるという形態でありながら、アンケートの中身がまだ出てきていない。そして、アンケートの内容を市民には提示しないというのは疑問です。

○会長

今のよろしいですか。何か結果を見ないで、計画と別々みたいな感じですね。そういうアンケートの結果を踏まえて計画がつくられるのだという、私も理解してるんですけど、データがとにかく遅く、見ないで計画だけができるっていうのは、ちょっと違うような気もするんですけど。頼んだところが悪かったのか分からないですけど、ちょっとね。

A委員、ほかはいかがですか。

○A委員

いいです、はい。

○会長

ほかの方、いかがでしょうか。

○B委員

資料1ですね。読み込んでる中で、先ほど事務局のお話にもあったんですけど、新しいサービスができたということで、99ページ、就労選択支援というのがありまして、その次の100ページ、就労選択支援というところの実利用者数っていうのが43というふうに記載がされていると思うんです。新しいサービスだとお伺いしたんですが、この43、実利用者数というのはどのような、人々を見込んだものかということが、どこかに記載されてるのかというように読んで、見当たらなかったの、どのようなことを想定して43人ぐらいとなったのかなっていうのと、もう一点ですけども、ペーパーの122ページ辺りからですが、ペーパーのほうには例えば短期入所とか、例えば123の生活介護とかっていうところに、強度行動障害者、高次脳機能障害者、重度障害者というのが別枠にされて数値目標を立てるよというような感じで、その以降もあるんですけども、今確認したらこっち側のタブレットのほうは全部それが割愛されてるんですね。ここら辺の経緯とか、立てるよといった経緯もそうですし、結局やめるに至った経緯もそうなんですけども、何かあるのならば教えていただけたらと思います。以上です。

○事務局

すみません、B委員の御質問ですけれども、就労選択支援とそれから見込み量の内訳につきましても、こちらのほう作業が思うように進んでいなく確定値になっていないまま発送しており申し訳ございません。発送させてもらった後も内容の確認等を行っていただいておりまして、大阪府等と調整等していったんですけども、就労選択支援につきましては、送付した時点でまだ見込みが立っておらず、その後、こちらのほう支援学校の新卒者の人数を基に見込んで

○事務局

当初の見込みとしております。実際のところ、始まったらい方がまた別に使われるかも分からず、あくまでも目安には過ぎませんけれども、実際にサービスが始まっていきましたら、またその実施状況とも確認しながら見直すことにはなろうかと思えます。

それから、障害種別のほかに強度行動障害、高次脳機能障害等の内訳もというところがあつたんですけれども、こちらとしては国の指針で、サービス見込みで幾つかのサービスについてその見込みを立てることが望ましいということで書かれており、当初は枠だけ書かれておつたのですけれども、その後、数字としてそれぞれ正確に拾うというのが非常に難しく、数値目標として挙げていないのですけれども、強度行動障害の方たちにつきましては、ニーズ等を調査しながら、それらに対応できるようなサービスを御提示できるようにさせていただきたいと、記載するなどして調整をした結果、この形になっております。

○B委員

ありがとうございました。支援学校の卒業の方を見込んで、そのニーズで43つというふうにされたということだと、はい。

○会長

ほかいかがでしょうか。

○C委員

ページ数とかが分からないんですけど、福祉施設から一般就労への人数と、その下に多分、移行支援事業所から一般就労への見込み数みたいなのが出てたページがあつたと思うのですが。

○会長

これ、今画面が出てるのでいいですか。

○C委員

はい。この一般就労への移行っていうのは、労働時間とかも関係なく、とにかく週20時間でも何でも雇用率換算に関係なく就労された方の数値でいいのかっていうところと、この福祉施設というのは就労A、Bは関係ないってことですかね。何か内訳がよく分からなくて、福祉施設は生活介護とかのことっていうことですか。全て統合した人数で、その内訳がこのAとかBとっていう感じになってるんですかね。教えていただけると。

○事務局

はい。福祉施設と記載しておりますけれども、就労系の事業所全般のもので、そちらから一般就労、特に雇用形態について詳細は問わないと考えており、そちらのほうに移行できた人数ということで掲げている目標です。

その内訳としまして、就労移行支援であるとかA型B型等を通じた移行数に関する目標も、それぞれ項目として立てられています。

○C委員

すみません。合計数が合っていないので、違うのかどうなのかっていう確認がしたかったんです。今の御説明ですと、2、3、4を足したら多分107になるのがあれなのかなと思うんですけど、下を全部足すと109になるのかなっていうとこ、ちょっと細かいんですけど。なので、また違う意味なのかなと思って御質問させていただいたんです。で、一般就労っていうことへの定義といいますか、それもお聞かせいただけたらっていうところです。

○事務局

先ほどの御質問についてですけれども、これ1番、2番、3番、4番とですね、それぞれ積算の方法が違うものになっておりまして、大阪府の基本的な考え方で、府全域の数字を按分した数字が示されて、それにつきましてそれぞれ、例えば1番であれば、その数値に対して1.28倍をしたものが答えになる。2番については1.31倍する。就労継続のA型については1.29、継続支援B型は1.28倍と、それぞれ数値が異なる部分がございます、その関係で微妙に数値が合わないようになっているようで調整いたします。

○C委員

そういう整合性が取れなくてもいいのならあれなんですけど、その一般就労というのは、結局もう雇用の時間も関係なく、とにかく企業に属したら一般就労っていうことでよろしいのでしょうか。

○事務局

はい。特に雇用形態等、厳密な定めはありませんで、一般の民間企業等に雇用されてお勤めされたら実績になるようになっております。

○C委員

すみません。じゃあ、一応それが大阪府の定義として、そういう保険とかが発生しないような雇用形態であっても、もうとにかく一般就労としてカウントされるっていうことになるんですかね。府がそう言うってそれに従うというのは仕方ないですが、それで一般就労と言われるとちょっと違和感しかないっていうところです、はい。

○事務局

すみません、ただいまの御質問についてですけれども、事務局が説明いたしましたとおり、1から2、3、4について、全て算出根拠は府から示されるものでございます。ただ、C委員の御指摘のとおり、理屈でいくと2、3、4を足したものが1の合計になるように変更させていただきたいと思っております。

○会長

はい。これは何を意味するのか、目標を立ててもね、なかなか分かりづらいとは思いますが。

私から一点だけ。大きなことじゃないんですけど、紙のほうだと84ページで、タブレットが何ページか分からないんですけど、「障害者総合支援法によるサービス体系」の上の文章のところ、3段落目に「就労選択支援（障害を持つ人の希望や能力に合う）」っていうふうに書いてある、タブレットだと赤字になってるところですけど、このところ「障害を持つ」という言い方はしていないように思っております、「障害のある」で統一していただきたいと思います。もし、この中に全部、すごい丁寧にチェックしていないんですけど「持つ」というのがあったら、それはやっぱり「ある」にする。細かい話ですけども、以上でございます。

では、また取りあえず案件2に進めさせていただきまして、最後にまた全体的なところを御質問いただければと思います。今、いただいた御意見については、もう一回精査していただいた上で、もし、修正する場合には、私と事務局に一任でよろしいですか。

（「異議なし」の声あり）

○会長

はい、ありがとうございます。了承いただいたということで、異議なしということで進めさせていただきます。

では、それでは続きまして案件2に行きたいと思います。「枚方市障害者計画（第4次）改訂版、及び枚方市障害福祉計画（第7期）・枚方市障害児福祉計画（第3期）策定に係るアンケート調査結果」について、事務局から御報告をお願いします。

【案件2事務局説明（資料2-1～5）】

○会長

はい、ただいまの御説明につきまして、御質問、御意見はいかがでしょうか。

○A委員

アンケートを反映した計画づくりということですが、アンケートから何を読み取って、どう計画に反映したのかということが不明確だと思います。分析のわかりやすさにもう少し時間を割くべきではないでしょうか。次回からの課題だと思います。また、計画の素案ができる段階でアンケート結果がすべて揃っていないというのは手順としておかしいと思います。



すみません、アンケートの集計が単純集計ではありますがけれども、こちらのほうで事業者さんの困っているところであるとかな団体さんのお考えや、また手帳をお持ちの方々について、比較的自立度が高いといった傾向も見えて、サービスについては関心が高くないような回答が多かったところもありましたので、別に支援区分ごとのクロス集計によりまして重度の方のニーズが少しでも把握できればと考えて、その集計も新たに取っており、それらを基にグループホームやショートステイ、ガイドヘルパー等についての整備は、引き続き力を入れていく必要があるとか、同性介助についての啓発等も検討していかなければいけないであろうかと、今後の施策に生かしていければというふうに考えております。

○会長      ほかの委員さんはいかがでしょう。この資料2-5も送られてきたと思うんですけど、表が山のように百何十ページに載っているだけのものが送られてきて、ここから何を読み取って、どう計画につながっているのかと感じたんですけど、いかがでしょう。

○D委員　　こちらのこの資料2-5、いろいろこのアンケートの中で障害支援区分ですね。手帳種別ごとになってるのかなと思うんですけども、計画のこちらのほうですね、こっちのページ11に支援区分ごとの人数が書かれてると思うんですけども、これは障害種別ごとの割合とかってというのは掲載する予定があるんでしょうか、すいません。こちらにはもう区分の人数しか書いてないんですけども、ここに身体の手帳の方とか精神の手帳の方、療育手帳の方がどのぐらいの、この区分ごとの割合というか、そういうのって書かれる予定とかはあるんでしょうか。

細かい部分ではあるんですけど、せっかくアンケートだね、手帳ごとの区分の数が多分分かるのかと思う、はい。この結果で多分分かると思いますので、今後その辺も載せていただければ、どんな区分はどういう手帳種別の方がいらっしゃるのかというのをもし知れたら、それもまた何かの参考になるのかなと思いますので、お考えいただければありがたいです。

○事務局　　今回のほうで対応できるかどうかまだ分かりませんが、今後検討は  
していきたいとおもいます。

○D委員 <sup>いいん</sup>  
<sup>ねが</sup> お願いします。

○会長	ほかの方はいかがでしょうか。御意見、御感想、質問、何でも結構です。はい、E委員、どうぞ。
○E委員	今タブレットの11ページで、資料の11ページ。区分が書いてありますが、意味が分かりません。説明をしてください。
○事務局	支援区分ですけれども、障害福祉のサービスを受けるときは、手帳の等級で重たい軽いというように直接的には考えなくて、サービスを利用したいとなったときに、その方についてお手伝いする必要性というのがどれぐらいのものになるかっていうものを数字で出すものになっています。
○会長	E委員、よろしいですか。
○E委員	分かりました。ありがとうございます。
○会長	はい、ありがとうございます。ほかはいかがでしょうか。
○F委員	アンケートの問27ですけど。その就労支援のところなんですけど、就労してからすぐ、支援者がついてくれるんですけど、しばらくしてからスキルアップしたいなと思ったときに支援者がついてくれたほうが良いなと思って、その相談とかができる窓口が欲しいなと思います。
○事務局	ジョブコーチというものがございます。
○会長	項目の8番に「就労後のフォローなどを職場と支援機関の連携（ジョブコーチなど）」って書いてあるところが、すごく数字が大きいですよ。
○F委員	そうです。そのジョブコーチの期間が短いので、働いてからしばらくたってスキルアップしたいときになかなかさせてくれないので、そのときにジョブコーチさんがいたら、よいなと思います。
○会長	はい、ありがとうございます。 だから、ただこういうのが増えてほしいだけでなく、今のよりももっと当事者の人が希望する、使いやすいようになってほしいという意見でいいですかね。はい、ありがとうございます。ほかいかがでしょうか。

○G 委員 すみません。先ほどね、障害者それぞれの人数、障害によっての人数を出してもらいたってことを今おっしゃっていただいたのですが、やはりアンケートをとったときに全体の人数の中の割合、どのぐらいの人数の人がこういう意見を出しておられるかっていうことが分かるためには、やっぱり全体の人数をやはり載せたほうが一般の人にも分かりやすく感じられるのではないかと私も思います。

だから、できればやっぱり障害ごとのね、プライバシーとかいろいろありますけど、やっぱり人数は出したほうがいいと私も思います。お願いします。

○会長 区分と障害種別とかっていうことですね。

○G 委員 はい。全体の障害の人数がどのぐらい。そのほうが分かりやすいと、意見の意味が。

○会長 はい、ありがとうございます。  
ほかはいかがでしょうか。いいですかね、はい。

そうしましたら、では3番に行く前にですね、やっぱりどうしてもこの体制が私もなかなか理解できなくて、お金をかけてたくさんの人に協力してもらったアンケートを反映せずに、ここで議論もせずに、計画の素案だけができていくってことはちょっと違うと私は思っております。大阪府の按分が遅かったのは事実です。けれども、他市によってはもう計画の策定が終わっており、これからもう市民に聞く段階になっているので、枚方市だけの分がすごく遅かったと思えません。

それから、その例えば資料の2-5も、先程事務局が言ってくれたようなことを、まとめとして分かりやすくつけてくれなければ私たちも見づらいですし、なぜ区分ごとにこのクロス集計をたくさんつくってもらったのか、狙いとそして例えば代表的な答えて枚方市の場合の区分、何とかの人の特徴としてこうだとかっていうことをピックアップしたものを計画にも反映したいので、それをこの資料の最後に数ページつけて送るっていうことも必要ではないかと思うんですね。これで計画ができたって言うていいのかどうかってことです。

自由記述もですね、多分幾つか特徴的なものがあって、それを抽出しなきゃいけないと思うんですね。その視点が、障害企画課さんのほうでやっていただいた、でも委員のほうから「いや、ここがちょっとすごい気になるんだけど」というようなことを、さっきの就労のことで、ただ希望があるんじゃないかって、恐らくはそういうフォローアップの期間とかそういうことも重要だっていう意見がF委員から出たら、それを反映させる可能性もあるというようなものかと思っております。自由記述がこのままでいくとあんまり見ることもなくということになるっていうのは、非常に疑問を感じております。

○会長 委員の方々も多分何を聞いていいのかも分からないような状況で、一生懸命参加してくださってると思うんですけど、この計画によっていろんなことが動いていくんですよ。なので、ぜひもっと御注文なりを出していただく。これが市民の目に届いたときにこれは分かりづらいよねっていう表現は注釈を入れるとか、そういうことをしなきゃいけないんじゃないかなと思います。自由記述は非常に重要ですので、それをカテゴリーごとに類型化するなりして、それについて市全体の課題とか、市全体の他市より進んでるところとかが見えるようなものになってほしいなと思います。

では、案件の3番目「地域生活支援拠点等の整備について」、事務局から説明をお願いします。

【案件3事務局説明（資料3-1、2）】

○会長 はい、ありがとうございました。

ただいまの説明につきまして、何か御質問、御意見がありましたらお願いします。

○C委員 すみません。この2番の緊急時の受入れ・対応のところは、本当に早く整備していただきたいなと思っているんですけども、具体的に何かもう、こういうお話があったときにどれぐらいは部屋数を確保する必要があるのかとか、自立支援協議会とかでお話はされてるのでしょうか。

○事務局 具体的な検討にまだ至ってないんですけど、協定を結んでそういった数を確保していくということと、地域のそういうニーズを踏まえて新しいショートステイをつくりたいと今後、相談が来て、そういったことをまとめてこれぐらいの数がありますということを示すのと、それを調整する機能をどうつくるかということ。これは非常に緊急時対応の中で必要な事項だと思っているので、恐らく現行の相談支援体制に加えて、専門のコーディネーターを配置することで調整していくのかなと思っています。

そのため、少しコーディネーターだけでなく、横のつながりでいわゆる緊急を把握していく仕組みみたいなことも恐らく検討が必要かと思っています。数に関しては恐らく、この事業の形式が少し形になったあたりには示せるんじゃないかなと思っています。

○C委員 もう落ち着きましたけど、コロナのときとかね、働いてる方が自分のグループホームに帰れない。自分は元気でも、グループホームにコロナにかかった人がいて行く場所がないっていう状況とかが起こったりいろいろある世の中ですし、整備を早めていただけるとありがたいなと思っています。

○事務局

今、御指摘があったみたいいろいろな事例があつて、必要があるとか  
そういった事例を集積しながら、方法についても示しながら、その後の  
地域生活が継続できるような支援体制になるように、事例検証なども行  
っていきたいと思っています。

○会長

よろしいですか。ほかいかがでしょうか。

○A委員

拠点コーディネーターは何名を予定されているのか。また、そのコーディ  
ネーターの人件費は委託料という形で行政が出すのかどうか。それから、  
体験の機会の場と2番の緊急時の登録制について、なぜ訪問系サービスが  
入っていないのでしょうか。なぜショートステイとグループホームでしか  
体験ができないのかという質問です。

○事務局

A委員の御質問ですけれども、拠点コーディネーターにつきまし  
ては、まだこちらのほう検討の段階に入ったばかりでして、  
具体的に何人であるとか委託料は何を基にしてどれぐらいの規模  
になるのかというようなところについては、未知数な部分がありま  
す。

それから緊急の受入れ体制につきましては、基本的にはもう独居  
状態になっては生活が維持できない方を措置のような形で短期  
入所のところに緊急的に避難してもらいまして、その後、適切な  
サービスにつなげてもらうということで維持していくことを考  
えております。現在のところ、居宅系サービスの事業所ということは、  
検討には入っていない状態です。

それから、体験の機会の場につきましては、グループホームに  
体験のための居室を確保していったら、そちらの中にコーディネー  
ターを置くか外部のコーディネーターになるか分かりませんが、  
その方を見極めをしていってもらいながらという形で、居宅に近い  
形での生活のシミュレーションもできるようなものが形にできれ  
ばなというように考えております。

○事務局

すみません。ただいまのA委員の質問についてですが、  
いわゆる緊急の場合については、なかなか居宅でサービスを  
提供するの是非常に難しいなと現実的には考えるとこで  
ございます。ただ、おっしゃっておられたように、地域移行  
に向けた体験ということであれば、その計画相談支援の中、  
策定される中で、市ともよく協議させていただいた中で、  
自宅であったりというのでホームヘルプを受けながら自立、  
地域で生活することについての訓練については、今後検討し  
ていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

○A委員

拠点コーディネーターの数がどのくらいなのかというのは  
重要ですので、事務局としてどう考えているのか、何人く  
らいどこに配置するのかという概要案を聞かせていただき  
たい。また、先ほど事務局がおっしゃったように、緊急時は  
確かにショートステイというのは分かるのですが、体験の場  
に関しては、確保する居室で訪問系サービスを体験できる  
仕組みを整備していただきたい。選択肢をどう確保するのか  
という問題、障害当事者がどの事業所を選んで地域に出てい  
くのかという問題です。最低、グループホームと訪問系サー  
ビスを選択できる仕組みにしないと、これは完全に措置にな  
ってしまうのではないのでしょうか。緊急時、ショートステイ  
に受け入れたとしても、訪問系、グループホーム、できれば  
生活介護を組み合わせていかないと、ショートステイの次の  
段階に行けないと思います。登録していない事業所にもコー  
ディネーター等が依頼していくというのは当然あると思  
いますが、地域移行を枚方市全体でやっていくんだという意識  
づけのためにも、また、受け入れを全事業所でやっていくと  
いう姿勢をとっていくためにも、登録制を導入したほうが  
いいという意見です。

それと、協定というのは具体的にどういう条件、例えば  
報酬など、何か具体的なものがあるのかどうかを教えて  
いただきたい。

○事務局

すみません、御本人の希望と行政の決定いかんによってサービスの選択（せんたく）についていろいろあるかとは思いますが、こちらで用意（ようい）したメニューばかりお勧め（すす）することになるということではないかとは思いますが、ただ地域生活支援拠点等の整備（せいび）という位置づけの中で、メニューとして新たに考えているものが今提示（いまいじ）しているものになっておりまして、体験（たいけん）の機会（きかい）の場合はそのグループホームに入居（にゅうきょ）ということ（ぜんでい）を前提（ぜんてい）にしているものではありませんので、単身生活等（たんしんせいかつとう）のシミュレーションになるような居室（きょしつ）のほうで、訪問系（ほうもんけい）のサービスなどと組み合わせ（くあ）るようなこととかもできるというようなことも考えております。

あと、緊急時（きんきゅうじ）のショート（うけい）の受入れにつきましても、市の査定等（さていなど）もございまして、一応（いちおう）地域生活支援拠点（いちおうちいきせいかつしえんきょてん）に登録（とうろく）した短期入所事業所（たんきにゅうしょじぎょうしょ）というのは、1軒（けん）1軒（けん）サービスに全部（ぜんぶ）上乗（じやう）せ報酬（ほうしゅう）がつくようになってる部分（ぶぶん）もありますんで、完全（かんぜん）なる委託（いたく）で報酬（ほうしゅう）丸（まる）ごと1泊（ぱく）分の委託料（いたくりよう）というような形（かたち）にはならないのかなと思（おも）いますけれども、今のところ（いま）何（なん）らかのインセンティブ（けんとう）はつけられるようにというふう（けんとう）に検討（けんとう）はしているところです。

○会長

コーディネーターの人数（にんずう）とかどういう方（か）かという質問（しつもん）は、いかがでしょうか。

○事務局

コーディネーターにつきまして、何人（なんにん）かというところまでは未定（みてい）ですが、ただ相談（そうだん）であるとか専門（せんもん）的人材（じんざい）、地域（ちいき）の体制（たいせい）づくり等（とう）の部分（ぶぶん）にも書（か）かせてもらっているんですけども、これら相談（そうだん）の部分（ぶぶん）につきまして、基幹（きかん）相談（そうだん）支援（しえん）センター等（とう）で相談（そうだん）も受（う）けてもらってという体制（たいせい）もございまして、最終（さいしゅう）的に拠点（きょてん）コーディネーターがそう（そう）いった基幹（きかん）相談（そうだん）支援（しえん）センターの方（かた）たちとのネットワーク（ちゅううしん）の中心（ちゅうしん）になってもらいまして、それぞれ連携（れんけい）しながらという体制（たいせい）を考（かんが）えておりますので、拠点（きょてん）コーディネーターが1人（り）で何（なん）もかも回（まわ）すようなものは考（かんが）えておりません。

○会長

A委員（いん）、いかがですか。

○A委員

今（いま）のお話（はなし）から推測（すいそく）するに、委託（いたく）予定（よてい）の民間（みんかん）事業所（じぎょうしょ）、その拠点（きょてん）にコーディネーターを置（お）くようなイメージ（イメージ）でしょうか。

○事務局

今、検討している中の選択肢の一つですが、その居室のほうへの連携とかもすぐできるなという部分はありますけど、ただそこは担ってもらう方の技量とえば失礼ですけど、そういった部分もありますんで、具体的にどちらの事業所とかいうことを考えるに当たって、また別の事業所などということもあり得るかもしれませんので、完全に決まってはおりません。

○事務局

すみません。ただいまのA委員の御質問ですけど、拠点コーディネーターを置いていこうというように今考えてございます。その人数につきましては、正直たくさん置くことではないかなと思っております。どういったところにどういった方を配置すれば、より効率的に市民のために立って機能していくのかということを考える中でいうと、それも含めて今後在り方については検討していきたいと思っておりますので、今どこそこにするとか地域拠点をお願いしたところにするとかいうふうには確定してるわけではないので、その点についてはもう少し内部や自立支援協議会などでも検討させていただければなと思っております。

○事務局

今回、アンケート結果を見て、地域の課題って何かというところ、地域移行それから就労であるとか緊急時対応、そして何点かあると思う。この拠点事業は、それをどう課題解決をしていくかっていうことを含んだ取組だと思っておりますので、このコーディネーターの配置が一つのキーワードではありますが、今、国や大阪府も示している相談支援のいわゆる構造体系、いわゆる促進をどこがするのか、誰が受けていくのかっていうことを、相談支援体制全体の体制強化も含めて議論しないといけないと僕は思っているんですけど、先ほど体験の話、体験は別にグループホームでやるということが体験と思ってるわけじゃなくて、本当に自立生活プログラムをみたいなのをつくってヘルパーを入れる。そして、いろんなサービスを使うということを実際にやってみる中で体験をしていくということに多分なると思うので、多分その計画相談も含めて、一緒に共同でやるというスタイルづくりをしていかないといけないのかなと。そういう提案を今後、協議会でも議論するし、ここで設置しようとしているワーキングの中でも議論をして、それぞれに意見を聞きながら形づくりをしていきたいと考えています。



○会長

どうします、A委員。

○A委員

先ほど拠点コーディネーターの数を聞いた理由にもなりますが、ショートステイに一時避難したとして、そこからどういう事業所がどういう体制で支えていくのかというときに、現状の相談支援センターと拠点コーディネーターだけでは手が回り切れないところはあると思うので、各事業所のネットワークを活用していくべきだと思います。第3回分科会の資料3、市に出していた、ここ3年間の入所者の地域移行についてというデータですが、新規入所内訳で毎年10人ぐらいの方が入所しています。いわゆるリハビリ等を除けば3名～5名ぐらいの方がやむを得ず入所になったというデータがあると思いますが、その方たちは本当に地域生活を継続できる可能性がなかったのか、すごく疑問だということを繰り返し言わせていただいています。当事業所もそうですが、ほとんどの事業所にデータに記載されている方を地域で支援できるかどうかという問い合わせすらなかったと思います。本当に枚方市の全事業所の力を合わせても地域生活を継続できなかったのであれば、それはある意味で、仕方がないと思いますが、そうではないならば、情報がちゃんと行き渡るようなネットワークをつくる必要があります。訪問系、グループホーム、生活介護等の登録制、情報共有が必要です。オール枚方といいますが、社会資源の活用、連携というのは、やっていけないといけませんので、ぜひ仕組みをつくっていただきたい。

○会長

はい、ありがとうございます。御意見ということで、はい。

本当このデータは貴重ですね。地域移行でつくってくださったこの資料は、すごいいろんなことが分かるなと思って。すぐ出てきましたけど。はい、ほかいかがでしょうか、御質問、御意見。

はい、どうぞ、B委員。

○B委員

事務局がおっしゃった後に、ワーキンググループでもうちちょっとまなきやいけないっていうような内容ではあるのかもしれないんですけども、緊急時の受入れのところは短期入所というものがあればそれはいいんですけども、先日もあったんですが、やっぱりあまりサービスにつながってない。例えば通所施設だけっていう方に関しても、その方が来ていないと。訪問するけれども、いらっしゃらない。電話をするけどつながらない。再度訪問したところ、朝なのに電気がついてるとか異変を感じて、中で御家族さんはもう亡くなって、お一人ですごい状態でおられたというケースがあった場合、生活介護の職員がそれを見て、自身の自宅に連れて帰る選択肢しかなかったっていうようなそういう状況に出くわしたときに、やっぱりつながってるサービスで緊急時、取りあえず受け入れたことに関しても、何かやっぱり法的に

○B委員

というか、対応したっていうところに何かないと、何でしょう、責任逃れ。もう見に行かなきゃよかった、そしたらばっていうようなことになりかねないなっていう事例がちょっと続いてまして、そういうつながってるサービスも緊急時に受け入れた場合というところも何か視野に入れてはどうかなっていうふうに思ったのと、あと3番の体験の機会について、グループホームの体験利用とはまた別だというような感じで、今、事務局の話聞いてて分かったんですが、長らくというか、入居者が骨折等で長期に入院をしなきゃいけないといったときに、例えば2か月なり3か月の間しばらく空く御部屋はすごい無駄と思ってまして、そのときに待機者がいても、あくまでもグループホームを体験してそのまま入居するのが目安で、なので空いてなければそこを使えないっていうようなことになってたんです。そういうところとかも、あくまでもその人の許可が要ったり、居室なので要るかなと思うんですけど、そういうところとか、あと多目的室とか例えばリビングも間仕切りができるとか、そういうことであるならば、何かそういう体験の場として使っても、今既存のグループホームでも使ってもいいとかっていうふうにすると、幅が広がるんじゃないかなと。期日を決めてとかそういうふうにするのも体験の場が増えるかなっていうふうにちょっと思いました。

○会長

御意見ということでよろしいですか。はい、ありがとうございます。

○事務局

その協定の在り方は、恐らく行政サイドだけでなく、こういう場であるとか協議会でいろんなこう、どの範囲でやるのか、どういう契約をするのかということは少し議論しないといけないと感じているのと、山本委員が言われたみたいに、緊急時に動いてもらう、そういうことに対するインセンティブみたいなことは当然議論が必要なことであって、通常以上の負荷がかかる取組でもあるので、それをどういった機関でやるのかということも含めて、いろんな協議会、ここの場所、ワーキング等々で少し具体的な案を提案できるように、行政の提案を待つ前にそういった実態から議論を進めていきたいなと感じています。

○会長

はい、ありがとうございました。

ほかいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

はい。そうしましたら、案件4「その他」に参りたいと思います。事務局から説明をお願いいたします、何かあれば。

○事務局

今後のスケジュールでございますが、本日いただきました御意見を基に素案を修正しまして、また必要に応じて委員の皆様にも見ていただいた上で、12月15日金曜日～1月9日火曜日の間で、市民意見聴取を実施いたします。

次回の専門分科会につきましては、2月2日火曜日を予定しております。よろしくお願いいたします。

○会長

ということは、自由記述について、どこで見て、どう議論するのが、市民の声を聞く前に私たちはできないということにならないように個別に説明いただけるということですよ。それなら整理されたものが欲しいかなと思いますし、皆さんもぜひ送られてきた資料について御意見をいただければと思います。いいですか。

あと、本日いろいろいただいた意見については、また事務局のほうで必要に応じて修正していただきまして、それについては私のほうで見せていただくということですのでよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○会長

すっきりしない感じで大変申し訳ないんですが、次回、皆さんとお会いするのは2月2日になるという。はい、皆さんまた御意見がありましたら、それまでの間でも事務局にお伝えいただければと思います。はい。

○A委員

すみません、先ほどの議論に戻りますが、アンケートの分析・反映の在り方も含めて、この審議会が追認する形になっていることの問題です。具体的には、アンケートに関して、データだけ示されるのではなく、先ほど会長がおっしゃったように、それに対する行政の評価、逆に言うと、行政が何を聞きたくてアンケートを実施し、結果が予想どおりなのか違うのか、評価を文章で示していただいて、それに対する意見交換、審議という形態で次回以降やっていただきたい。また、気になったのがこの計画の策定体制です。「自立支援協議会で意見を聴取した」と書いていますが、私も委員をやっていますが、この計画に関して自立支援協議会の委員として一度も意見を聴取されていません。資料の3-1でも「自立支援協議会幹事会」とあり、幹事会では協議されていますが、幹事会は「自立支援協議会の円滑な運営」という位置づけですので、やはり自立支援協議会全体での意見聴取が必要ですが、2月の最終段階で意見を聞かれても、そこから意見を反映するのは実質的にはできないと思います。行政と委託された相談支援事業所で構成される幹事会だけの意見というのは、行政だけの意見に近いものになってしまうので、学識経験者である三田会長や障害福祉サービス事業者の代表、そして、当事者団体を含めて広く意見を聞く必要があると思います。特に当事者の意見を

○A委員 聞かないと、例えば先ほどの自立生活の体験の場の案のように、当事者が事業所を選択する権利という視点が抜けているという問題などが出るので、情報提供や議論の対象を一部に限定するのではなく、広く行う必要があると思います。

○会長 はい、ありがとうございます。私も基本的に同じでございます。すいません、H委員、いかがですか。

○H委員 皆さん、アンケート結果を反映させたっていう形でということをおっしゃっておられたんですけど、私がちょっと気になる場所があって、資料1の69ページとかでいくと、表は「障害者の就労支援に対して、上のようなことが必要だと思いますか」ということに対して「職場の上司や同僚に障害の理解があること」ということが52%とあって、すぐ回答内容が多い方が多いんですけど、それに対してやっぱり何か一言、それに対する対応策みたいなのを少し触れるっていうことが必要じゃないかなというふうに思っています。なので、こういう形でアンケートをピックアップして載せるからには、それに対する対応策みたいなものが載っていたほうがいいのかというように思いました。以上です。

○会長 はい、ありがとうございます。一例としてということですよ、コメントなり。

○H委員 そうですね、はい。

○会長 そういう、それも読み手へのあれですよ、配慮といえますか。

○H委員 そうですね、やっぱりせっかくアンケートを採ってこういう意見が出ているのに、行政がそれを放置してるかのように読み取れてしまうみたいなのところがあるかなと思います。

○会長 はい、ありがとうございました。  
全体を通して、皆さん何か御意見、言い忘れたことをこの際、お伝えしたいこととかありましたら、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。  
そうしましたら、また今後のことは事務局から御連絡があると思いますけれども、これを持ちまして第5回障害福祉専門分科会を閉会したいと思えます。  
本日はお忙しい中、本当にありがとうございました。